

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600250		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームおびひろ栄 1階		
所在地	北海道帯広市西16条北1丁目25-9		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0194600250-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然と笑顔になってもらえる雰囲気の中で生活をしてもらえるようなホームを目指しています。また、ご家族にも安心してもらえるような環境を考え、ゆっくりと過ごしてもらえる空間を提供しています。近隣の他施設との連携プロジェクトにも参加する機会があり、住み慣れた地域で生活を続けられるよう、お手伝いしたいと思います。
 ・コロナ禍により、外出や面会の制限もあり、入居者様には不便を掛けているが、少しでも気分が晴れるよう、感染対策を施しつつ行事食を楽しむ機会が増えた。今後も様々な企画を検討し、笑顔あふれる暮らしを提供していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームおびひろ栄」は、幹線道路沿いに面し周辺には協力医療機関やスーパー、公園がありバス停が目のある環境に恵まれた鉄筋コンクリート造2階建2ユニットの事業所である。感染症の流行により途絶えているが地域交流や会議用途に活用できる台所付きの多目的ホールを設備し、建物は回廊式で歩行訓練等に利用でき運動不足の解消を補える造りである。栄地区の病院が主催する医療連携プロジェクトに参加し、他事業所と連携し社会資源の一つとして地域福祉の充実に寄与している。町内イベントの参加は自粛や中止の状況であるが積極的に参加協力をするなど近隣との関係も良好である。食事の時間や食べたいもの、趣味事などしたい時にしたいことができるよう利用者の希望や願いを受け止め、状態像に応じる支援の実際があり、時間枠に囚われずに本人がありのままの姿で暮らせる事を支えるチームケアがある。外出がままならない中にあり、室内レクリエーション以外に日常生活の営みを職員と一緒にいき、リハビリや訓練につなげ日常生活動作の低下予防に向けている。職員が働きやすい業務のあり方などの労働環境の整備にも力を注いでいる。不適切ケア防止委員会は職員が感じている利用者の困り事の提言と検証が行われ支援方法の改善に活かす場となっている。管理者は家族とのつながりを大切にしたいと述べている。新たな取り組みの計画もあり、今後の運営に大いに期待したい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所やフロアに掲示し、職員が常に確認できるようにしています。管理者・職員が丸となり日々のケアが向上出来るよう話し合いの場を大切にしています。	理念はパンフレットや事業所内要所へ掲示し、家族へは契約時に、新人職員へは入職時に説明している。ミーティングや申し送り、不適切ケア委員会で具体的な接し方を確認するよう努めている。	理念について職員間で話し合いを持ち、事業所全体で実践につなげることが大切である。ミーティング時に理念に沿った介助や支援になっているかの評価に取り組む考えを示しているのでその実現に期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域との交流の機会が無くなってしまったが、町内会長様が町内の広報紙を届けてくれる際に、情報交換を行っている。また、協力医療機関が主催している、医療介護連携プロジェクトにも参加し、他事業所との関係を深める機会が生まれた。	感染症流行以前は地域防災訓練や町内夏祭り、焼肉会に参加したり、民生委員が和菓子を手作りして利用者に振る舞う事もあった。栄・川北地区で医療介護連携プロジェクトが構築されており、当事業所も参加し高齢者等の福祉に寄与している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	元職員から、近隣の方でグループホームに入居を希望されている方の紹介があり、入居された方がいます。住み慣れた地域で生活されている方々がグループホームの入居を検討して貰えるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、コロナの感染拡大防止のため、書面での開催と致しました。事前にご意見・ご要望を記載して頂く書類を送付しましたが、ご意見・ご要望がない状況でした。今後は、オンラインの活用も検討します。	感染症の流行により参集にての会議を見送り書面にて開催している。2か月分の事故報告(ヒヤリハット含む)や研修、行事報告がなされている。事前に意見をj得る仕組みを設けている。	参集開催が困難な状況下での具体的な課題の協議や理解・支援を得る会議運営のあり方が課題である。不適切ケア防止委員会実施状況や入退職員について書面へ反映させる事での意見反映もあり得る。メンバーや家族からの意見をj得る方法を検討する意向であるので期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治体からの情報は、主にメールで送信され、その都度内容を確認しています。必要に応じ市役所へ訪問し、協力関係を継続しています。	市の担当者とはワクチン接種状況や事業所アンケート等メールにて協働し、実地指導は書面にての実施となった。生活保護課担当者とも書面でやり取りしている。介護認定調査時は調査員へ本人の状態を伝達し連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会への参加が出来なかったため、資料を配布し、学んでいます。帰宅願望の強い利用者があり、その行動を制限しないようにするには、どのような対応を行うか職員同士で検討する機会が増えました。	「身体的拘束等の適正化のための指針」を定め、「不適切ケア防止委員会」の定期開催に努めている。事例に基づき提言や検証を進め支援の気づきや改善に活かし、利用者の心に寄り添う対応にも真摯に取り組んでいる。年2回適正化における内部研修を実施している。玄関は夜間のみ施錠である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の芽を早期に発見できるよう、管理者・職員が常に意識し、日々の業務に当たっています。虐待を行わないよう資料を配布し、理解を深めています。		

ふれあいの里 グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や生活保護受給の方については、管理者が後見人やご家族と連携し、必要に応じた対応を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者様やご家族が不安に思っている事を把握し、問題が解決出来るよう、真摯に説明しています。また、入居後に発生した疑問点にも、問題解決のため、丁寧な説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の要望を聴き、可能な限り運営に反映出来るよう努めています。	体調変化時や文書類を含め何らかの報告を毎月家族へ行っているが、2月より事業所通信の再開を計画中である。情報発信力を高めることにより家族に日常的な暮らしが更に伝わり、意見が出やすい事も想定される。利用者からの意見等はその都度支援に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時には、管理者は職員からの意見や提案に耳を傾け、職員全員が公平で、負担にならないよう運営できる体制の整備を心掛けています。	管理者は法人システムに則り業務の効率化推進に努め、労働環境の整備や介護人材の定着に向けている。職員間の公平・平等を意識し壁を造らない方針で臨み、意見等を言いやすくなるようにしている。入浴時間の設定を職員の意見を受け変更するなど情報を取り入れ一緒に話し合いながら調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革により、職員が働きやすい就業時間や雇用形態に柔軟に対応しています。正社員・パートであっても、責任が伴うことを理解してもらえるよう指導しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、e-ラーニングで個別で学習する機会を設け、各自が学びたいテーマを選択し、学習しています。外部研修は集合の研修は困難であり、オンラインで学ぶ研修の参加を増やしたいと思ます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力医療機関が中心となって、栄・川北地区の医療介護連携プロジェクトのオンライン研修に昨年度から参加しています。病院・薬局・介護施設等他事業所との交流する機会を得られ、他事業所が抱える問題点の情報が共有され今後の活動に活かしたいと思ます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時には、ご本人が不安に思っていることを聞き取り、グループホームでの生活が安心して頂けるよう信頼関係の構築に努めています。こちらから一方的に質問せず、ご本人のペースに合わせて聞き取りを行っています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の中には、介護保険制度の内容をよくご理解されていないご家族もおり、わかりやすい説明を心掛けています。話の腰を折らず、時間を掛け、不安を払拭出来るよう関係性を深めるようにしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人やご家族から、必要とする支援が実現可能かを見極め、双方が納得できる支援内容にする。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることで、支援して欲しいことを見極め、残存機能が維持できるように支援していく。入居者様と良好な関係を築くよう努める。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、感染予防のため面会の制限もあり、寂しいと感じる利用者もいた。現状を理解できる方は、少なく都度説明するが、納得いかない方が多かったように感じます。ご家族にも不便を掛け申し訳ないと思うが、感染予防のためと一定の理解は得られた。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人との電話や手紙が届くこともあり、関係性が途切れないよう支援している。	感染症の流行以前は友人や自宅近所の方の訪問もあった。家族や友人からの電話の取り次ぎを行ったり、携帯電話で家族と通話する利用者もいる。家族面会は昨年一部緩和され条件付きで可能であったが、感染症対策により再度、面会の自粛が余儀なくされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、なじみの関係を続けている方もいらっしゃるが、引っ込み事案の方もおり、職員が介入することで、関係を築いている方もいる。お互いの存在を認め合えるように支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、転居先に情報提供し、今後の生活を安心して生活できるよう協力しています。またご家族にも近況を尋ねたり、相談に対しても対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族から今迄と同様な暮らし方の希望を聞き取り、入居後も意向の変化に、柔軟に対応しています。	発語が難しかったり不確かな場合は本人の暮らしぶりや状態像を踏まえ、家族からの聴取や職員間で相談し本人本位を検討している。希望や意向を表出する利用者が多く、計画や日々の支援に向けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りきれなかった事柄の把握に努め、ご本人が安心して生活できるよう、ご家族やサービス提供事業所からも情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人が希望する1日の過ごし方に近づけるよう、職員主導ではなく、ご本人の意向や体調に配慮しつつ現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向を中心にし、各関係者とも連携し介護計画を作成しています。モニタリングは担当職員が行い、職員からの意見も取りいれています。	利用開始時や退院後は短い期間で設定し、通常は短期6か月の設定である。策定に当たっては本人・家族の意向確認は元より、居室担当職員のモニタリングとカンファレンスで他の職員の意見も反映させ必要な支援を盛り込んだ計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングで各利用者のケアについて話し合い、統一したケアを提供できるよう意見交換しています。入居者様の心身状態の変化を把握し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族が抱えている困りごとに対して、現在行っているサービスに捉われず、柔軟に支援できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で施設内の入館を禁止しているため、地域資源を活用出来ていないが、今後も関係を継続できるよう連携を深めます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月1回の訪問診療時に、入居者様の体調を確認し、相談しています。専門医の受診の際には、ご家族の協力も頂いています	協力医療機関による往診と訪問看護の体制を整え適切な医療を受けられる支援に努めている。協力医療機関以外の受診は家族対応を基本としている。月に3回歯科衛生士が訪れ口腔衛生に係る指導を得ている。医療内容は適宜、家族へ報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護時に、管理者・介護職員から体調の変化等を報告し、助言を頂いています。助言から、協力医療機関以外の受診につなげています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には十勝地区入退院連携のルールに基づき、早期に情報提供行っています。また退院時にも、関係者との話し合いの場には、必ず同席し情報収集しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針についてご家族へ説明し同意を頂いております。サービス利用中に重度化した場合には、ご本人とご家族の意思を尊重し協力医療機関との連携体制を整えています。	利用契約時に「ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。事業所では食事の摂取が難しくなるまでを限度としている。家族や医療関係者と今後の対応や関係機関への移行について協議し支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内に緊急時対応マニュアルをファイルし、緊急搬送時に持ち出し出来るよう備えています。急変時の対応訓練を実施出来ていませんが、今後想定した訓練を実施したいと思います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。今年度は、停電時に食事の提供を行えるかの訓練を実施しています。災害に備え、定期的に訓練を重ねていきます。地域との協力体制も構築しています。	令和3年3月は、夜間想定火災避難訓練、9月には日中・停電想定下の食事提供と階段搬送訓練(垂直避難)を実施した。災害に備えた備蓄品を確保している。自然災害発生時における業務継続計画(BCP)は法人で策定中である。	新入職員が12月に配置されているので、通報・正しい消火器の使い方の指導や確認も重要である。利用者の状態を踏まえた具体的な避難策を昼夜を通して検討し、いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるよう対策の強化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いに気をつけています。プライバシーに配慮した対応を心掛けています。	認知症の理解や対応、接遇についてeラーニング研修やミーティング等で話し合う機会がある。日々の会話やトイレ誘導時の声かけは利用者の人格や尊厳を損なわない言葉遣いや態度に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを汲み取り、自己決定が出来るよう支援を行っています。自己決定が困難な方にも、ご本人の表情や、感情を通して、方向性を確認しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は職員側の都合を優先しているが、就寝時間等は、利用者のリズムに合わせています。レクリエーション活動も積極的に参加しない方もおり、各自の望む過ごし方を優先して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣をご自身で行える方々が、多くお洒落を楽しまれています。身だしなみもご自身で出来る部分はご自身で行っていただき、出来ない部分のみ支援しています。		

ふれあいの里 グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士監修の献立を提供しています。行事食では、その季節を感じる食事を提供しています。食器拭きをお手伝いして頂ける利用者もいて、職員の負担軽減になっています。	献立と食材は母体法人より提供されているが、自由献立日を設け、寿司やサンドイッチなど利用者の希望のメニューも取り入れている。たこ焼き、餃子などを一緒に作り食事作業に参加している。おやつは十勝銘菓やあんみつなど地元ならではの甘味を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量の把握に努め、低下した場合には、どのようにして低下を防ぐかを話し合う機会を設けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔ケアが困難な方には、介助し口腔内に異常がないか確認しています。年1回の歯科無料検診があり、定期的なケアが必要な方には、歯科往診を依頼し、口腔内が清潔に保てるよう協力しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録から、その方の排泄パターンを分析し、トイレ誘導のタイミングをつかんでいます。排泄時の失敗の際には、プライバシーに配慮した対応を心掛けています。	排泄チェックはパソコンで管理している。本人の仕草やタイミングを見計らいトイレで排泄が出来るよう個別に対応をしている。自立している利用者のプライドに配慮しつつさりげなく見守りも行い、失念している事の有无を確認している。失禁の際も羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の処方の際に、ご本人の様子を主治医と相談した上で、処方して頂き、排便状況を報告しています。便秘予防のため、ヨーグルトを毎日召し上げる利用者もいて、便秘予防に効果がある、オリゴ糖を食事等で提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴を楽しめるようにしています。体調不良時には、負担の少ない入浴方法で、清潔の保持が出来るよう支援しています。午前・午後と入浴時間を利用者と相談し、可能な限り、入浴時間の変更にも対応しています。	週2回の入浴を楽しむ工夫では、ゆず湯や入浴剤を使用したり、利用者の希望の時間や順番に配慮している。拒む利用者には足湯に替えて気持ち良さや清潔感を味わってもらっている。浴槽は3方向から入ることが可能であり、身体機能に応じて介助しやすい造りである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況に応じて、居室や共有空間の照明を調整しています。夜間眠れない場合には、その方に合わせホットミルクを提供して良眠できるよ支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師の訪問が定期的であり、処方薬の相談について相談する機会があり、疑問を解消しています。利用者のお薬情報を書面で頂き、効果や副作用を理解し、服薬介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物干し等担って頂ける役割は、利用者にお手伝いして頂いています。外出が出来ないことにより気分転換出来ていないが、ホーム内で気分転換出来るよう、レク活動の充実を図っています。		

ふれあいの里 グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は出来ていない。定期的な受診に関しては、管理者のみ通院に同行することが多いが、可能なご家族には、通院の同行を依頼し、待ち時間等で交流して頂いている。	自粛以前は、地域のイベントや買い物、家族との外出や外泊、ドライブなどの外出をサポートしていたが、現在は通院受診が主な外出先となっている。制限緩和時は事業所周辺の散歩や敷地内にある菜園、花壇を眺めるなど、外気浴の支援に努めた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則金品の持ち込みは、利用規約改定後5000円以内となっているが、それ以上自己管理している利用者が数名いらっしゃる。物品の購入は立替払いを利用されている方々多く、自己管理出来ているかは不明。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人と携帯電話で連絡を取り合う利用者が数名おり、充電が切れていないか、時折確認している。年賀状でのやりとりを楽しみにしている利用者もいて、交流を継続出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は随時清掃し、清潔に保つよう心掛けています。ひな祭りやクリスマス等には、飾り物を配置し、季節感を演出しています。	共用空間は明るく歩行訓練に活用できる回廊式である。利用者と職員の手作り作品や観葉植物が飾られ、テレビの見やすさや利用者同士がお喋りを楽しめるようにソファを配置している。段差で使用が不向きな和室を改修し、居心地のよい共用空間の拡張に至っている。床暖房、エアコンが設備され寒暑対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が、それぞれ会話を楽しめるよう、環境を整備しています。会話が成立していない場合には、職員が介入する場合があります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具等を持ち込まれている方が多く、ご自宅での生活の延長線上にあると思われれます。ご家族との思い出の写真が飾っていたりと個性溢れる居室環境になっています。	居室にはクローゼット、カーテン、照明、床暖、換気システムが備え付けられている。慣れ親しんだソファや仏壇、電化製品などが持ち込まれ、趣味事もできるように環境を整えている。安全・快適な環境維持のための設備点検、整備を行う予定である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等がわからない方に対して、目につくようなわかりやすい表示にし、安全に過ごして頂けるよう、工夫しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600250		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームおびひろ栄 2階		
所在地	北海道帯広市西16条北1丁目25-9		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0194600250-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然と笑顔になってもらえる雰囲気の中で生活をしてもらえるようなホームを目指しています。また、ご家族にも安心してもらえるような環境を考え、ゆっくりと過ごしてもらえる空間を提供しています。近隣の他施設との連携プロジェクトにも参加する機会があり、住み慣れた地域で生活を続けられるよう、お手伝いしたいと思います。
 ・コロナ禍により、外出や面会の制限もあり、入居者様には不便を掛けているが、少しでも気分が晴れるよう、感染対策を施しつつ行事食を楽しむ機会が増えた。今後も様々な企画を検討し、笑顔あふれる暮らしを提供していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常時確認できるよう、目につく食堂に基本理念を掲示しています。理念に基づきながら、日々の業務に当たっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で町内会活動の参加は自粛中であるが、町内会長様はグループホームの入居者様や職員の心身の状況の変化を何かと気にかけてくれており、良好な関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方でグループホームの入居申込される方が増っており、事業所の知名度が上がりがつつある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は集合の形式ではなく、書面開催で実施した。事前にご意見ご要望等を伺えるよう書面作成し、郵送したが、反応はなかった。今後どうご意見等が集まるか内容を検討したい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	帯広市役所からの情報は、主にメール送信されており、内容確認後対応しています。訪問する機会はコロナ禍で難しい状況であり、メールでの連絡が中心になっています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを掲示し、3か月に1回不適切ケア委員会を開催し、議事録を周知し、日々の業務に活かしています。夜間帯では出入口の施錠しているが、日中帯では施錠しない様に、見守りを強化しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通して、学ぶ機会を創出し、理解を深めています。小さなことでも、職員間で問題点を共有し、虐待を未然に防ぐ取り組みを行っています。		

ふれあいの里 グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の定期的な訪問があり、利用者の生活を報告しています。制度の理解と活用については、職員の個人差が多く、改めて学ぶ機会を増やしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定が行われた場合には、書類を送付し同意して頂いています。不明点等の質問に対しては、納得して頂けるよう伝わりやすい言葉で、説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見箱を設置しているが、意見なく経過している。意見を言いづらいようにならないよう、気軽に相談できる関係を目指しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案に耳を傾け、実現可能な案件は上司と相談し、実現できるよう努めています。職員が提案することにより、自信が付き、向上心が持てるよう、管理者は指導しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が希望する働き方を尊重し、労働時間や勤務日数の相談に応えられるよう努めています。離職なく、職員負担を軽減できる人員配置になるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加は時世により困難であるが、オンライン研修を活用し学ぶ機会が減少しないように、研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会がなく、ネットワークづくりには至っていないが、今まで培ってきた関係を維持できるよう訪問にこだわらない活動を模索しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談に対し、関係者からの情報を整理し、ご本人の困りごとに対して、どの支援が有効かを検討し、入居可能か判断している。ご本人との信頼関係が強くなるよう傾聴を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に抱えているご家族の要望を傾聴し、安心してサービスが利用できるよう関係を深める。またサービス利用開始後に、ご家族が想像していた内容に相違が発生した場合には、再確認して頂けるよう説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の現在の希望に沿い聞き取りを行い、ニーズに合う支援を管理者・計画作成担当者と協議し、ご本人、ご家族ともに納得できる提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力に応じて、過剰介護にならないよう、自立支援に努めている。主人公は常に入居者様であることを自覚し、職員は脇役に徹する。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症の進行に伴い、愛するご家族のことを忘れてしまう入居者様もいらっしゃるが、今迄のご家族と過ごした日々を大切に、ご家族、職員が情報共有し、ご本人を支える。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで築いてきたご本人の馴染みの関係が維持できるよう、面会や手紙のやり取りが継続できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を考慮した席の配慮や、孤立しないように定期的に居室を訪問し、信頼関係を構築する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまで築いてきた信頼関係を維持し、必要に応じた相談援助が行えるよう支援を継続する。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望、意向を聞き入れケアに取り組めるよう心掛けているが、職員本位になるところも正直ある。困難な場合には、ご家族からの情報を参考にする場合もある。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴から、今までに近い生活が実現できるよう、ご本人、ご家族と相談している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録から1日の過ごし方の把握に努め、ご本人の負担にならないよう、支援方法を検討している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、ミーティングやモニタリングを通して、意見やアイデアを出し反映しながら、介護計画作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づき等は、その都度介護記録の申し送りやケース記録に入力しているが、入力漏れもあり、口頭での申し送りになっている場合もあるため、入力漏れを極力減らす。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの役割を理解し、緊急のショートステイを受け入れ可能か検討している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しお互いに協力できるよう、地域内の活動にも参加している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月1回の訪問診療を実施し、体調管理しています。体調不良が発生した場合には、通院し、治療を行い、必要に応じ専門医の紹介も助言頂けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護実施。体調の変化を書面及び口頭で伝えていきます。受診の必要性や、褥瘡等の処置の方法をアドバイスして頂き、利用者の体調管理に貢献して頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療が必要な状況の入居者様については、協力医療機関と連携し、入院受け入れの体制が整っている。早期に情報提供書を作成し、報告している。退院時には、ご家族とICにも同席し退院後の生活について質問しています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的処置が必須でホームだの生活が困難となった場合には、今後の方向性について、主治医とご家族との話し合い、ホームでどこまで出来るか検討している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは掲示しているが、訓練の実施は、滞っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。火災や地震を想定したものとなっている。また停電時を想定しての調理実施も行っている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としてプライドやプライバシーを損なわないよう、優しく丁寧に言葉かけを心掛けている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を聞いて、衣類等を自己決定できるよう促している。また、自己決定が困難な方には、表情等で汲み取っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやADLに合わせて過ごして頂くよう努めているが、職員の都合により、その日の予定を組み込んでしまうケースもある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容でヘアカットや顔そりの支援を受けている。整髪や顔の汚れ、衣類の汚れにも注意を払い、気配りを心掛けている。			

ふれあいの里 グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者と一緒にできていないが、片付けは食器拭きを手伝ってくれる方がおり、役割や生活のハリとして尊厳の保持ともなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立をもとに調理している。利用者に合わせて食事形態や食器類等を変えての対応や、栄養補助飲料の提供や好みの水分を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助を行っている。利用者により、義歯の噛み合わせや汚れが顕著の利用者に入れ歯安定剤の使用や、歯間ブラシの使用を歯科衛生士の指導のもと行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しながら、表情や身振りを見ながらトイレ誘導し、失禁軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用している利用者には主治医と相談し下剤の調整や、薬の変更を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中帯での入浴が基本となっている。体調不良時は様子を見て清拭での対応を行っている。ゆっくりと話せる、コミュニケーションの場にもなっており、楽しみにもなっている。また入浴拒否が継続している利用者もいるが、試行錯誤するが、入浴には至っていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯は光や音に声、温度や湿度に気を配り安眠できるように支援している。日中も体調に考慮し、ベッドにて疲労軽減に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からのお薬情報の内容を把握できるようにしている。体調や内服薬の変更、副作用についても確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から、なじみの習慣の聞き取り、できること、やりたいことを継続支援している。家事等の役割やご家族からの好みの飲食物の差し入れ、レク活動のボール遊び等楽しみごとで気分転換を図っている。		

ふれあいの里 グループホームおびひろ栄

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状では外出行事やレクリエーション等が行えていない。外気浴や花壇の花々を見に出かけるのみとなっている。コロナが落ち着いた後は、今まで制限していた外出ができるようになることを期待している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持保管している利用者が一部いるが、使用する機会がない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの入電があり、会話を楽しんでいる利用者もいらっしゃる。手紙や写真も届くこともあり、心待ちにしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	24時間の空調換気、適切な温度、湿度になるよう冷暖房の調整に気を配っています。毎日の掃除により環境整備しており、クリスマスやひなまつりやハロウィン等季節感を味わえる飾りつけも行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や波長、ADLに合わせながら、リビングで過ごすときの位置に配慮したことにより、馴染めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室での使用品や置物は、ご本人が使い慣れた物や好みの物となっており、なじんでいる。安全面にも配慮した家具等を配置している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、共有スペースに手すりを設置し安全に配慮しています。居室やトイレに表札を掲示し、わかりやすく示しています。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームおびひろ栄

作成日：令和 4年 2月 20日

市町村受理日：令和 4年 2月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の基本理念の内容が抽象的であり、新人職員に説明するにあたり、内容を理解しにくい理念であり、より具体的で実践しやすい理念へ作り直す必要がある。	開設時からの理念を見直し、現在いる職員で話合いの機会を設け新たに基本理念を創造する。	ミーティング内で、職員それぞれが意見を述べ、基本理念に基づいた、介助や支援につなげられる理念を目指す。	1年間
2	3	運営推進会議は今年度は、コロナウイルス感染予防のため集合形式ではなく、書面開催で実施した。以前より、ご家族の参加が少なく、会議に参加できる人数を増やす方法を検討していたが、結果に結び付いていない。	ご家族が運営推進会議に多く参加できるようにする。	運営推進会議だけではなく、避難訓練等の行事を絡めて、参加したくなる運営推進会議の内容を検討する。また会議への案内文もひと工夫し、参加出来なくとも、内容が伝わる文面にする。	6か月
3	35	自然災害の発生が増加しており、緊急時の対応を検討し、訓練を通して知識を身に着ける必要がある。災害対策のマニュアルを整備し事業継続できる体制を整備する。また新人職員採用後の研修・指導のマニュアルや訓練のあり方も整備する。	防災訓練の充実と指導マニュアルを作成し、職員がだれでも理解できるものとする。	自然災害・火災に関する訓練を増やす。また町内会の方々にも参加を募り、地域の中でどの様な役割を事業所が担えるかを検討する。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。